

優秀賞

自分で得た価値

関西大学第一中学校3年 前田 円花

ナンバーツーじゃなくてオンリーワン。これは中二の私の成長物語。

ある日、仲のいい友達の「私、立候補する！」という一言。その時、「周りはほとんどん成長している。私も変わらなければ」と思い、初めて前期生徒会に立候補しました。全校生徒の前に立った時はすごく緊張して、でも案外話し出すと慣れてきて演説が終わると、初めて感じた達成感と満足感でいっぱいでした。

前期生徒会が終わり後期生徒会の時。正直、前期は友達が立候補するという後押しがあり、後期の立候補は迷っていました。友達は立候補しないと断っていました。しかし、もしここで何もしなければ、私の中学生生活は平凡なもので終わっていました。その時私は、友達に流されてはいけない、自分の意志で動こうと思いました。私は前期生徒会の役員として、私の知らない学校を知ることができ嬉しかったので、このまま自分に自信のついた状態で後期も立候補しようと決心しました。後期では副会長という前期よりも上の役職に立候補しました。実際、生徒会に立候補している同学年の人は私以外、全員男子でした。でも私は「女子でも男子に負けてはいけない」と思い、立候補演説をより工夫しました。演説は今でも覚えています。私はこう宣言しました。「副会長に立候補するにあたり、生徒会のナンバーツーではなく、オンリーワンの仕事を果たしたいです。」よく副会長の演説で「会長のサポートをします」と聞きます。副会長が会長のサポートをすることは当たり前であり、私は副会長としてオンリーワンの責務を果たしたいという気持ちでスピーチに込めました。演説が終わると話したことのない友達が「オンリーワンの演説すごかったよ！」と声をかけてくれて、私自身、中二の時にすごく変わることができました。

自分の足で立って乗り越えることで、自分だけのオンリーワンの幸せが手に入れられるのだと実感しました。